使用例にては 52 例中 50% が 12.5 ケ月間 25% が 12 ケ月間生存している⁴⁾、と報告している。又日比野教授⁵⁾は生存月数の延長がみられ約 10% の症例は生存していて、寛解が可能で苦痛がさけられることを報告している。

本例も又同様に入院直後より高熱となり、全身状態増悪したが繰返し輸血を行い、高度の貧血を支えつゝ 6-MP を使用したのであるが、網状赤血球の推移をみるに入院直後は末梢血にて 1% であったが、退院時には 32% と増加、骨髓中 3% が 25% に増加し、造血機能を活潑化するに最良の治療と思われ、急性の場合には輸血は欠くべからざる処置と考えられる。次で各種薬物療法であるが、本例に於ては 6-MP を使用し、見るべき効果があり苦痛を除去し、慢性化し得る事を確めた。

結 論

- 1) 2才の女兒に於ける Mikulicz 型を呈する蛋白

血病を経験し 6-MP を使用し寛解を見、病勢の慢性化する事を得た。

- 2) 繰返し行ふ輸血は造血機能を昂め必要欠くべからざる治療法にて、化学療法と共に充分施行すべきである事を経験した。

尚稿を終るに当り終始御指導を賜わり、御校閲をいただいた恩師木田文夫教授、島田敏夫教授に謝意を捧げ、標本作製御協力下さいました病理学教室河野教授、教室員の皆様に深謝を表します。

参 考 文 献

- 1) 赤崎兼義：綜合臨床 2, 1 号 (昭 28)
- 2) 小宮悦造：綜合臨床 2, 1 号 (昭 28)
- 3) 森・早川：小児科診療 19, 7 号 (昭 31)
- 4) 前田伊三次郎：診療 9, 1 号 (昭 31)
- 5) 日比野進：最進医学 11, 5 号 (昭 31)
- 6) 岩川克信：小児血液病様疾患

業態婦の淋疾罹患に関する統計的觀察

日本医科大学第二医院産婦人科教室 (主任 三谷 茂教授)

神 保 功

Isao Zinbō

寺 坂 亮 利

Suketosi Terasaka

緒 言

戦前日本の国家権力は公娼制度を公然と保護し、遊廓はむしろ風紀維持に必要な社会施設とされていた。

戦後占領政治のもとで男女同権を謳う新憲法が制定され、婦人の基本人権が強調された結果、公娼制度は一応廃止されたわけではあるが、其れは表面的なもので何等具体的な停止改革は認められなかった。昨年売春防止法案が世論の圧倒的支持を得て国会を通過し、本年 4 月より更生保護規定の一部が既に実施され、来年 4 月 1 日からは刑罰規定も発動され、同法案が完全実施の運びとなるわけである。現在其の成行が一般の注目の的となつている。しかし同法案が性病の撲滅を目的として発案されたものではないが現在の如き性病の減少が将来如何に変化するものか注目に値する事柄である。現在の所性病蔓延の最も大きな原因は夫婦外

性交である以上売春婦の性病に視線を向けざるを得ないのは勿論である。

ここに於て余等は横須賀市安浦町遊廓に於ける業態婦の淋疾罹患の状態を年令及び学歴、性経験、営業、性病予防、麻薬覚醒剤、月経、家計等の角度から統計的に觀察し、若干の知見を得たので報告する次第である。

調 査 方 法

ショートアンサー方式を採用し、プリントを印刷して同じ間に対して表現を変えて重複せしめ、其の信頼度の有無を確めて記録した。本調査に好意的に協力した女性は 188 名である。

調 査 成 績

既往に於て罹患した性病の種類は延人員 199 名中淋疾 111 名 (56%)、梅毒 13 名 (7%)、軟性下疳 13 名

(7%), 第4性病3名(2%), 不明26名(14%), 罹患なきもの33名(17%)で淋疾が圧倒的に多い。又此の商売に入つて初めて性病に罹患したものは、第1表の如く67%に達していた。又此の商売に入つてから初めて性病に罹患する迄の期間は、第2表の如く1ヵ月以内49%, 1ヵ月以上3ヵ月迄26%で、従つて3ヵ月以内では75%の者が罹患すると云う結果を示した。

第1表 この商売と初回性病罹患との関係

	数	%
商売に入つてから罹患	125	67
商売に入る前に罹患	8	4
罹患せず	30	16
不明	25	13
計	188	100

第2表 この商売と初回性病罹患迄の期間

	数	%
1ヵ月以内	92	49
1ヵ月以上～3ヵ月迄	49	26
3ヵ月以上～6ヵ月迄	14	7
6ヵ月以上	13	7
罹患せず	17	9
不明	2	1
計	188	99

而して昭和30年9月より10月にかけての1ヵ月間の検診で淋菌を発見された者即ち検診に落ちたものは188名中68名(36%)であつた。其の内1回落ちたものは41名(21%), 2回落ちたものは23名(12%), 3回落ちたものは3名(2%), 4回はなく、5回は1名(0.5%)であつた。この罹患状態を次の項目により観察して見た。

1) 年令及び学歴と罹患状態

年令と淋疾罹患との関係は第3表の如く年令の若い

第3表 年令と淋疾罹患

年令	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
18～20	18	46	21	54	39
21～23	40	66	21	34	61
24～26	28	62	17	38	45
27以上	34	79	9	21	43
計	120		68		188

者程罹患率の高い結果を示した。年令的未経験がこの様な結果を生じたものと思われる。学歴との関係は第4表の如く学歴の高い者は概して罹患率が高いと云う結果となつた。

第4表 学歴と罹患

学歴	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
小学程度	53	67	26	33	79
新制中学程度	42	63	25	37	67
新制高校程度	24	60	16	40	40
専門学校程度	1	50	1	50	2
計	120		68		188

2) 性経験と罹患状態

性経験即ち処女を失つた年令と結婚(同棲)経験の有無の2項につき観察した。処女を失つた年令は、18才より20才迄の間が最も多く54%を示した、第5表の如く、此れと淋疾罹患との関係は認められない。処女を失つた動機は結婚21%, 婚約及び恋愛40%, 商売23%, 強姦5%, 好奇心1%, 其他11%であつた。結婚(同棲)経験の有無との関係は、結婚(同棲)経験者は188名中75名(40%), 未婚者113

第5表 処女を失つた年令と罹患

年令	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
17	13	76	4	24	17
18	22	65	12	35	34
19	21	66	11	34	32
20	26	70	11	30	37
21	7	39	11	61	18
22	11	85	2	15	13
23	2	50	2	50	4
24	1	20	4	80	5
25	0	0	1	100	1
不明	17	63	10	37	27
計	120		68		188

第6表 結婚(同棲)経験の有無と罹患

結婚同棲経験	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
有	50	67	25	33	75
無	70	62	43	38	113
計	120		68		188

名(60%)であつたが罹患状態は第6表の如く未婚者に稍々多い傾向を示した。

3) 営業と罹患状態

営業の状態は、経験年数、なじみ客の種類及び接客数の3種に分類した。

経験年数に関しては第7表の如く年数の長い者程罹患率は明かに減少していた。即ち経験年数の長い者程性病に対する予防的関心が大であると云える。なじみ

第7表 経験年数と罹患

経験年数	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
6 カ 月	40	56	31	44	71
1 年	24	59	17	41	41
2 年	31	71	13	29	44
3 年以上	25	78	7	22	32
計	120		68		188

第8表 なじみ客の種類と罹患

種 類	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
勤 人	74	68	35	32	109
商 人	15	68	7	32	22
自 衛 隊	7	44	9	56	16
工 員	11	69	5	31	16
運 転 手	3	38	5	62	8
学 生	3	50	3	50	6
人 夫	0	0	2	100	2
芸 能 人	2	100	0	0	2
僧 侶	0	0	1	100	1
其 他	10	50	10	50	20
不 明	12	86	2	14	14
な し	1	100	0	0	1
計	138		79		217

第9表 1日平均接客数と罹患

接 客 数	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
1 人	7	64	4	36	11
2 人	18	75	6	25	24
3 人	48	59	34	41	82
4 人	19	59	13	41	32
5 人	13	62	8	38	21
不 明	15	83	3	17	18
計	120		68		188

客の種類との関係は第8表で示した如く自衛隊、運転手、人夫をなじみ客とする者に罹患率が高いと云う結果となつた。1日平均接客数は3人が43%で最も多い。此れが罹患との関係は第9表の如く関連性はない様に思われた。

4) 性病予防と罹患状態

性病予防に関しては彼女達は極めて大きな関心を示している。即ち殆ど大部の者(97%)は性交後直ちに洗滌を行つていた。洗滌液は単なる温湯によるものが最も多い(59%)。本項では客のコンドームの使用法と罹患との関係を追求して見た、第10表の如くコンドーム使用率の高い程罹患率は低いと云う当然の結果を得た。

第10表 コンドームの使用法と罹患

使用 方法	非罹患		罹 患		計
	数	%	数	%	
必ず使用	1	100	0	0	1
なるべく使用	25	71	10	29	35
客によつて使用	73	66	38	34	111
使用したりしなかつたり	4	44	5	56	9
使用しない	15	56	12	44	27
不明	2	40	3	60	5
計	120		68		188

5) 麻薬覚醒剤と罹患状態

麻薬覚醒剤注射の既往あるものは188名中22名(12%)で、其の種類は大部分(91%)はヒロポンであり、他はモルヒネのみであつた。打ち始めた動機は人の真似をした者32%、何となく打つてみた者18%、体が疲れたため14%、他人からすすめられた者14%、やけくそ9%、其他15%であつた。此れが罹患との関係は第11表の如く特別の関連はない。

第11表 麻薬覚醒剤と罹患

麻薬覚醒剤	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
打つたことなし	99	64	55	36	154
打つたことあり	14	64	8	36	22
不明	7	58	5	42	12
計	120		68		188

6) 月経と罹患状態

月経時下腹痛、腰痛等の障害を訴えた者は76%で、変らない者18%、不明6%であつた。又月経時店を休む者27%、休まない者49%であつた。月経は順調

第 12 表 月経と罹患

月 経	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
順 調	77	64	43	36	120
不 順	36	65	19	35	55
不 明	7	54	6	46	13
計	120		68		188

か否かの間に対する罹患の関係は第 12 表の如く特別の関係は認められなかつた。

7) 家計と罹患状態

彼女達の 1 カ月間の小遣の消費量は最高 3 万円, 最低 300 円で其の内 6 千～1 万円迄 33% で最も多く, 1 千～3 千円 22%, 3 千以上～5 千円迄 21%, 1 万円以上～3 万円迄 12% の順であつた。この小遣消費量と罹患との関係は特別認められなかつた。又親元などへの仕送りは 188 名中 102 名 (54%) が行つている。1 カ月最高 1 万 5 千円, 最低 300 円で其の内 3 千～5 千円の者が最も多く 55% であつた。此の仕送りの有無と罹患状態との関係は第 13 表の如く仕送りしている者の方が明かに罹患率は低いと云う結果を示した。又仕送り金額と罹患との関係に就いても検討してみたが此れには特別の関係は認められなかつた。

第 13 表 仕送りの有無と罹患

仕 送 り	非 罹 患		罹 患		計
	数	%	数	%	
な し	42	54	36	46	78
あ り	76	75	26	25	102
不 明	2	25	6	75	8
計	120		68		188

結 語

余等は横須賀市安浦町遊廓の業態婦 188 名を対称として, 淋疾罹患の状態を種々の角度より観察し, 次の結果を得た。

1) 年令の若い者程罹患率は高い。又学歴の低い者

は高い者より概して罹患率は低い傾向にある。

2) 結婚 (同棲) 経験者は未婚者よりも罹患率は稍と低い。

3) 経験年数の長い者は短い者より低率で, 又人夫, 運転手, 自衛隊をなじみ客とする者は, 高率である。

4) コンドームは使用度の高い者程罹患率は低い。

5) 仕送りしている者は, していない者より低率である。

6) 接客数, 処女を失つた年令, 麻薬覚醒剤, 月経, 小遣消費量, 仕送り金額等と罹患率との間には特別の関係は認められない。

稿を終るに臨み御指導御校閲を賜つた恩師三谷教授に深謝致します。又種々御教示を戴いた横浜日赤産婦人科医長三宅清平博士並びに本調査に協力せられた安浦カフエー組合に対し敬意を表します。尙本論文の要旨は第 26 回日本産婦人科学会神奈川地方部会に於て発表した。

文 献

- 1) 榎本貴志雄: 医界公論 (21), 14 (昭 24)
- 2) 川島真他: 公衆衛生 9, (1), 53 (昭 26)
- 3) 榎本貴志雄: 公衆衛生 9, (1) (昭 26)
- 4) 雪吹 周: 臨床皮泌 6, (12), 664 (昭 27)
- 5) 田中 英: 性病 37 (4), 161 (昭 27)
- 6) 田中 英: 性病 37 (4), 165 (昭 27)
- 7) 市川篤二他: 性病 38 (3), 63 (昭 28)
- 8) 小原菊夫: 性病予防研究 1 (1), 4 (昭 28)
- 9) 西嶋 明: 日医大誌 21 (9), 870 (昭 29)
- 10) 山田功也: 皮性誌 64 (8), 517 (昭 29)
- 11) 高橋昭一他: 北海道医学誌 29 (2), 714 (昭 29)
- 12) 高橋昭一他: 北海道医学誌 29 (2), 706 (昭 29)
- 13) 井上幹次他: 北海道医学誌 29 (2), 719 (昭 29)
- 14) 伊藤 実: 性病 39 (1), 23 (昭 29)
- 15) 春原千秋: 遺伝 9 (2), 24 (昭 30)
- 16) 増田圭喜: 日医大誌 23 (2), 129 (昭 31)
- 17) 加藤 実他: 日医大誌 23 (2), 137 (昭 31)
- 18) 尾立源二他: 長崎総合公衆衛生誌 4 (2), 14 (昭 31)
- 19) 村田文雄他: 日産婦学会東京地方部会報, 6 (1), 33 (昭 32)